2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科	科目	区	分	専門基礎分野	授業の方法	講義演習
科目名	解剖学Ⅱ	必修/選	₹択ℓ	D別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対象学年	1年生	学期及び	「曜日	寺限	通年 金曜4限	教室名	視聴覚室
担当教員	有馬 那帆 早川 大輔 実務経験 その関連	医師として	医療瑪	掲場で	従事している。		

《授業科目における学習内容》

身体の構造と機能のうち神経系の解剖、生理を学んでいく。疾患や障害の理解、リハビリテーション実施の基礎となるものである。

主に解剖学の教科書に沿い、それに一部生理機能を補いながら説明していく。内容は初めて習うことが多く、専門用語が多いので繰り返し復習することが大切である。

《成績評価の方法と基準》

期末試験(筆記)100%で評定する。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学(医学書院)

《授業外における学習方法》

教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。

《履修に当たっての留意点》

履修する内容が多いので、1回1回の講義を大切にしていきましょう。

授 第 方		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 1	講義演	に 通じての 神経系の基本的な構造が説明できる。(~P232) ・ 通过重標 【	教科書	教科書の内容を図表を中 心に予習。授業で学んだこ とをノートにて復習する。参		
- 回	習形式	各コマに おける 授業予定	神経系総論①(神経系の区分、構成)	視聴覚教材	考図書・テキストなどで理解を定着させる。	
第 2	講義演	授業を 通じての 到達目標	中枢神経系・末梢神経系の構成を説明できる。	教科書	教科書の内容を図表を中 心に予習。授業で学んだこ とをノートにて復習する。参	
□	習形式	各コマに おける 授業予定	神経系総論②(中枢神経系·末梢神経系)	悦 心 見 教 付	考図書・テキストなどで理解を定着させる。	
第 3	講義演	授業を 通じての 到達目標	髄膜・脳室系の構造と機能を説明できる。	教科書	教科書の内容を図表を中 心に予習。授業で学んだこ とをノートにて復習する。参	
o 🗇	習形式	各コマに おける 授業予定	中枢神経系①(髄膜・脳室系)	視聴覚教材	考図書・テキストなどで理解を定着させる。	
第 4	講義演	授業を 通じての 到達目標	神経系の発生に関して説明できる。	教科書	教科書の内容を図表を中 心に予習。授業で学んだこ とをノートにて復習する。参	
1 0	習形式	各コマに おける 授業予定	中枢神経系②(神経系の発生)	視聴覚教材	とをノートに (複音 9 つ。 ∅ 考図書・テキストなどで理 解を定着させる。	
第 5	講義演	授業を 通じての 到達目標	脊髄の構造と機能を説明できる。	数 到妻	教科書の内容を図表を中 心に予習。授業で学んだこ とをノートにて復習する。参	
5 回	習形式	各コマに おける 授業予定	中枢神経系③(脊髄)	視聴覚教材	さをノートに し復省する。 考図書・テキストなどで理解を定着させる。	

	業の 法	内容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第 6	講義演	授業を 通じての 到達目標	延髄の構造と機能を説明できる	教科書	教科書の内容を図表を中 心に予習。授業で学んだこ とをノートにて復習する。参
Ö	習形式	各コマに おける 授業予定	中枢神経系④(延髄)	視聴覚教材	考図書・テキストなどで理 解を定着させる。
第 7	講義演	授業を 通じての 到達目標	橋・中脳・網様体の構造と機能について説明できる。	教科書	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
回	習形式	各コマに おける 授業予定	中枢神経系⑤(橋・中脳・網様体)	視聴覚教材	
第 8	講義演習	授業を 通じての 到達目標	小脳の構造と機能を説明できる。	教科書	教科書の内容を図表を中 心に予習。授業で学んだこ とをノートにて復習する。参
回	習形式	各コマに おける 授業予定	中枢神経系⑥(小脳)	視聴覚教材	考図書・テキストなどで理解を定着させる。
第 9	講義演習	授業を 通じての 到達目標	大脳の構造と機能を説明できる①(P256~P263 大脳皮質機能 局在前まで)	教科書	教科書の内容を図表を中 心に予習。授業で学んだこ とをノートにて復習する。参
回	習形式	各コマに おける 授業予定	中枢神経系⑦(大脳1)	視聴覚教材	考図書・テキストなどで理解を定着させる。
第 10	講義演習	授業を 通じての 到達目標	大脳の構造と機能を説明できる②(P263~P267 大脳皮質機能 局在~)	教科書	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
回	習形式	各コマに おける 授業予定	中枢神経系®(大脳2)	視聴覚教材	
第 11	講義演	授業を 通じての 到達目標	神経路(伝導路)とその機能を説明できる。 (P268~P271)	教科書 "	教科書の内容を図表を中 心に予習。 授業で学んだこ とをノートにて復習する。 参
回	習形式	各コマに おける 授業予定	中枢神経系⑨(神経路1)	視聴覚教材	考図書・テキストなどで理 解を定着させる。
第 12	講義演	授業を 通じての 到達目標	視覚の神経路、聴覚の神経経路とその機能を説明できる。 (P271~P273)	教科書	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
回	習形式	各コマに おける 授業予定	中枢神経系⑩(神経路2)	視聴覚教材	
第 13	講義演	授業を 通じての 到達目標	平衡覚の神経路、味覚の新経路、嗅覚の神経経路とその機能 を説明できる。(P273~P274)	教科書	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
0	習形式	各コマに おける 授業予定	中枢神経系①(神経路3)	視聴覚教材	
第 14	講義演習	授業を 通じての 到達目標	下行性神経路とその機能を説明できる。(P274~P277)	教科書	教科書の内容を図表を中 心に予習。授業で学んだこ とをノートにて復習する。参
<u>.</u>	習形式	各コマに おける 授業予定	中枢神経系⑫(神経路4)	視聴覚教材	考図書・テキストなどで理解を定着させる。
第 15	講義演	授業を 通じての 到達目標	神経系の解剖学的・組織学的構造および生理学的作用が説明できる。 中枢神経系(脳および脊髄)や神経路の構造と機能を説明できる。	教科書	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだこ
2 0	習形式	各コマに おける 授業予定	神経系総論・中枢神経系のまとめ	視聴覚教材	とをノートにて復習する。参 考図書・テキストなどで理 解を定着させる。

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科目	区分	ì	専門基礎分野	授業の方法	講義
科目名	解剖学Ⅱ		必修/選	択の	别	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対象学年	1年生		学期及び	が曜時 かんしん かんしん かんかん かんかん かんかん かんかん かんかん かんか	限	通年	教室名	視聴覚室
担当教員		実務経験と その関連資格	医師として	医療現場	子で行	従事している。		

《授業科目における学習内容》

身体の構造と機能のうち神経系の解剖、生理を学んでいく。疾患や障害の理解、リハビリテーション実施の基礎となるものである。

主に解剖学の教科書に沿い、それに一部生理機能を補いながら説明していく。内容は初めて習うことが多く、専門用語が多いので繰り返し復習することが大切である。

《成績評価の方法と基準》

期末試験(筆記)100%で評定する。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学(医学書院)

《授業外における学習方法》

教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。

《履修に当たっての留意点》

履修する内容が多いので、1回1回の講義を大切にしていきましょう。

授 第 方			内 容	使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第 16	講義演	授業を 通じての 到達目標	末梢神経系の構造と機能を説明できる。	教科書	教科書の内容を図表を中 心に予習。授業で学んだこ とをノートにて復習する。参 考図書・テキストなどで理 解を定着させる。
2回	習形式	各コマに おける 授業予定	末梢神経系(脳神経及び脊髄神経)総論	視聴覚教材	
第 17	講義演	授業を 通じての 到達目標	脊髄神経系(頸神経)の構造と機能を説明できる。	教科書	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
回形	習形式	各コマに おける 授業予定	脊髄神経①(頸神経)	視聴覚教材	
第 18	講義演	授業を 通じての 到達目標	脊髄神経系(頸神経)の構造と機能を説明できる。	教科書	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
2 回	習形式	各コマに おける 授業予定	脊髄神経②(頸神経)	視聴覚教材	
第 19	講義演	授業を 通じての 到達目標	脊髄神経系(胸神経、腰神経)の構造と機能を説明できる。	教科書	教科書の内容を図表を中 心に予習。授業で学んだこ とをノートにて復習する。参
20	習形式	各コマに おける 授業予定	脊髄神経③(胸神経、腰神経)	視聴覚教材	考図書・テキストなどで理解を定着させる。
第 20	講義演	授業を 通じての 到達目標	脊髄神経系(腰神経、仙骨神経)の構造と機能を説明できる。	教科書	教科書の内容を図表を中 心に予習。授業で学んだこ とをノートにて復習する。参
20 0	習形式	各コマに おける 授業予定	脊髄神経④(腰神経、仙骨神経)	視聴覚教材	考図書・テキストなどで理解を定着させる。

授第	業の 法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第 21	講義演	授業を 通じての 到達目標	脳神経の構造と機能を説明できる。	教科書	教科書の内容を図表を中 心に予習。授業で学んだこ とをノートにて復習する。参
0	習形式	各コマに おける 授業予定	脳神経①	視聴覚教材	考図書・テキストなどで理解を定着させる。
第 22	講義演習	授業を 通じての 到達目標	脳神経の構造と機能を説明できる。	教科書	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
回	習形式	各コマに おける 授業予定	脳神経②	視聴覚教材	
第 23	講義演習	授業を 通じての 到達目標	脳神経の構造と機能を説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中 心に予習。授業で学んだこ とをノートにて復習する。参
回	音形式	各コマに おける 授業予定	脳神経③	兄 哪 見 教 材	考図書・テキストなどで理解を定着させる。
第 24	講義演習	授業を 通じての 到達目標	自律神経系の働きについて説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中 心に予習。授業で学んだこ とをノートにて復習する。参
回	習形式	各コマに おける 授業予定	自律神経系の働き	7元4応 見 教 的	考図書・テキストなどで理解を定着させる。
第 25	講義演習	授業を 通じての 到達目標	皮膚の構造と機能について説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
回	形式	各コマに おける 授業予定	感覚器①(皮膚)	代····································	
第 26	講義演習	授業を 通じての 到達目標	視覚器の構造と機能について説明できる。	粉 彩.聿	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
	形式	各コマに おける 授業予定	感覚器②(視覚器)	代····································	
第 27	講義演習	授業を 通じての 到達目標	平衡聴覚器などの構造と機能について説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
	形式	各コマに おける 授業予定	感覚器③(平衡聴覚器、その他)	[元华心·元·芬文化]	
第 28	講義演習	授業を 通じての 到達目標	神経系・感覚器系の解剖学的・組織学的構造、生理学的作用が説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中 心に予習。授業で学んだこ とをノートにて復習する。参
回	音形式	各コマに おける 授業予定	神経系·感覚器系総括①	元4心 見 役/7	考図書・テキストなどで理解を定着させる。
第 29	講義演習	授業を 通じての 到達目標	神経系・感覚器系の解剖学的・組織学的構造、生理学的作用が説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中 心に予習。授業で学んだこ とをノートにて復習する。参
回	習形式	各コマに おける 授業予定	神経系·感覚器系総括②	T兄称·見教的	考図書・テキストなどで理解を定着させる。
第 30	講義演習	授業を 通じての 到達目標	神経系・感覚器系の解剖学的・組織学的構造、生理学的作用が説明できる。	教科書	教科書の内容を図表を中 心に予習。授業で学んだこ とをノートにて復習する。参
回	習形式	各コマに おける 授業予定	神経系·感覚器系総括③	視聴覚教材	考図書・テキストなどで理 解を定着させる。